



三笠宮崇仁親王殿下御孫

彬子女王殿下御参拝

三月十五日、「髷の殿下」として広く親しまれ、昨年六月に薨去された寛仁親王殿下の第一女子・彬子女王殿下が、親しく参拝され神宝館を拝観された。

午後三時、総社・辺津宮の神門前「皇族下乗」の石塔前に、高向宮司、葦津権宮司以下職員並びに、谷井宗像市長、責任役員、地元総代らがお迎え申し上げる中、福岡県警の護衛車とともに参入したお召車から、彬子女王殿下が降り立たれた。

女王殿下は奉迎者に心よく会釈をされ、葦津権宮司の案内で神門前へ進まれますと、高向宮司がご挨拶を申し上げ、神職の先導により大前へと進まれ、立玉申を捧げられた。



平成ノ大造営
時満ちて
道ひらく

余滴

和辻哲郎は、「風土の中でアジアモンスーン地帯の人々は、その「湿潤」による大雨・洪水・暴風・旱魃等の自然の破壊力に対し抵抗をすることを断念。「自然に対し受容性、忍従性にならざるをえなかった」と解説している▼福岡県と大分県の境を流れる山国川は、菊池寛の小説「恩讐の彼方」でも、その厳しさを教えてくれている▼九州北部集中豪雨と名付けられた、平成二十四年七月の大豪雨は、気象庁によれば観測史上初めてとなるような豪雨となり山国川は氾濫し、流域は甚大な被害を受けた。この川の上流は、頼山陽が命名した耶馬溪と言われる景勝地で集塊岩が風化された奇岩が連なり、大雨が降れば大地にあまり吸収されることなく一気に川に流れ込み氾濫を繰り返す歴史がある▼その下流に鎮座する八幡鶴市神社には、山国川の治水工事で人柱となった鶴と市太郎の母子が配祀されている。その歴史は、八七〇年前、山国川の氾濫に悩み苦しむ農民の為に、また中津平野の農地の開墾の為、堰の必要性を考え治水工事を始めるが、簡単には山国川は工事を終わらせてくれない。今一步のところで氾濫し破壊されてしまう。この時、鶴と市太郎の親子が人柱となり無事竣工を願う。そして村人はこの堰を完成させたと言われている▼日本列島の河川には八岐大蛇の神話のように、神代の時代より大自然の破壊力と恵みに対する畏敬が絡み合った様々な伝承が各地に残る。(渡)

神具・装束・授与品

井筒

葦東店	〒600-8503	京都市下京区油小路通六条上る
	フリーダイヤル	0120-075-980
福岡店	〒812-0068	福岡市東区社領1-12-10-401
	フリーダイヤル	0120-055-092
授与品店	〒601-8348	京都市南区吉祥院観音堂町23
	フリーダイヤル	0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市縮元4丁目20 電話(0940)32-2567

に、皇室の篤い崇敬を賜り、各記の神勅を下されているよう

当大社は天照大神より、右

御神勅
汝三神 宜しく
道中に降居して
天孫を助け奉りて
天孫に祭かれよ



御参拝、同五十年には百合子

中津宮と沖津宮の宗像三宮に
され、総社・辺津宮をはじめ、
次沖ノ島学術調査時を御視察

時代を通じ皇族
の御参拝をいただ
いている。



が参上し当大社に関することを御説
明申し上げている。
また、寛仁親王殿
下には、昭和五十七
年に津屋崎を訪問さ
れた際、当時の宮司



三笠宮殿下応制歌歌碑の前にて

女王殿下は御参拝後、儀式殿にて御
休息になり、その際には三笠宮殿下参
拝時の写真を御覧になられた。
その後、昭和五十年宮中歌会始にお
いて、三笠宮殿下がお詠みになられ、

その中においても三笠宮家
と当大社の由縁は深く、三笠
宮殿下(彬子女王殿下の御祖
父)には、昭和四十四年の第三

宮司	高向 正秀	神宝館々長
権禰宜	杉山 安彦	宗像護国神社管理主任(兼) 宮司兼務社管理主任(兼)
禰宜	葦津 敬之	社務本局長 御造宮室長(兼)
渡邊 秀丸	葦津 幹之	庶務部長 文化財管理事務局長(兼) 氏子青年会事務局長(兼) 御造宮室員(兼)
長友 貞治	佐々木大治	經理部長 海洋分局長(兼)
長友 貞治	長友 貞治	祭儀部長 祭儀部賽務課主任 祭儀部儀式課長 祭儀部儀式課長 氏子會幹事(兼)
中原 裕生	坂本 敬	祭儀部賽務課主任 氏子會幹事(兼) 宗像大社菊花会事務局長(兼) 庶務部庶務課主任
神島 亘	御床 直之	御造宮室員(兼) 主基地方風俗舞保存会事務局長(兼) 御造宮室員(兼)
大塚 宗延	壹岐 貴寿	經理部庶務課主任 經理部用度課主任(兼) 宗像大社菊花会事務局員(兼) 御造宮室員
松林 拓	吉野 理	宮司秘書(兼) 庶務部庶務課員(兼) 經理部用度課員
鈴木 祥裕	日高 庸介	主基地方風俗舞保存会事務局員(兼) 庶務部庶務課員 宗像大社菊花会事務局員(兼)
日高 庸介	宗像 崇史	祭儀部賽務課 氏子會幹事(兼) 祭儀部儀式課員 氏子青年会事務局員(兼)
宗像 崇史		祭儀部儀式課員



神宝館前に建立された歌碑(同十月建立)を御覧になり、高向宮司の説明に感慨深げの様子でしばし見入られていた。

沖ノ島
もりのしげみの 岩かげに
千歳ふりにし 神祭りのあと

神宝館では宗像大神に奉獻された各時代の神宝を御覧になり、特に沖ノ島の祭祀について興味を抱かれた様子で、縄文・弥生時代の沖ノ島について御下問があり、三十六歌仙の扁額の前では大和絵の美しさに感銘を受けられたようであった。



昭和天皇にはヒドロ虫類の研究、今上陛下にはハゼの研究、御祖父である三笠宮殿下にはオリエント史の研究など、学術研究に寄与される伝統がある皇室において、女王殿下はその影響を受けられ、日本美術の御研究に



取り組まれている。神宝館視察後は、儀式殿にて御休息になり、当大社職員並びに多数の奉送者がお送り申し上げる中、御機嫌麗しく当大社を御出発になられた。

この日は女王殿下をお迎えした歓びの日に相応しく、前日までの雨風が嘘のように雲ひとつなく晴れ渡り、宗像の山河は柔らかな陽光に包まれていた。宗像大社の歴史に新たな一ページが刻まれた。



彬子女王殿下

三笠宮殿下の御長男、寛仁親王殿下の第一女子として昭和五十六年十二月二十日御誕生。お印は雪。学習院大学御卒業後、平成十六〜二十二年にかけてイギリスのオックスフォード大学マートン・カレッジ御留学。二十二年哲学博士(オックスフォード大学)。二十四年四月より慈照寺研修道場に御勤務、並びに立命館大学衣笠総合研究機構特別准教授に御就任。現在は京都でお暮らしになられている。

また、未来を担う子供たちに本物の日本の伝統文化を伝えるべく、「心游舎」プロジェクトを提唱され、その代表発起人としても活発に活動されています。

心游舎ホームページ <http://shinyusha.jp>

百年先を見据えて

平成ノ大造営

宗像大社平成ノ復興期成会 発会式

去る二月二十六日、当社責任役員、氏子会関係者二百六名出席の下、当社清明殿にて「平成ノ復興期成会」発会式が開催された。会の主目的は、今後行なわれる三宮の造営(修

復整備)に対する御浄財の募金事業を円滑に進める事である。

発会式では、葦津権宮司が事業計画(案)、会則(案)・役員(案)を出席者に説明、承認を得た。会長には、宗像大社復興期成会会長として「昭和の大造営」を成し遂げた出光興産創業者 出光佐三氏の子息 出光興産名誉会長 出光昭介氏に御就任頂いた。



今日の当社の姿は、昭和四十年代に行われた「昭和の大造営」によって整えられた。しかし、それから四十年以上が経過し三宮本殿を始めとする諸施設は老朽化が進んでいる。この状況を鑑がみ一昨年より造営事業の立案が進められ、今回の発会式となった。



宗像大社 平成ノ復興期成会 発会式

事業期間は、当社が沖津宮・中津宮・辺津宮の三宮から構成され事業内容が多岐に亘る事、又今日の経済状況等を踏まえ十カ年とし、これを三カ年の三次に分けることとなった。内訳は、一次が国庫補助対象となる辺津宮本殿・拝殿並びに防災施設、二次は辺津宮諸施設、三次は沖津宮・中津宮の整備となる。

一次事業である辺津宮本殿・拝殿の修復(お屋根葺替え、漆塗り他)については、国庫補助

事業ということもあり既に国・県・市と計画を進めており、本年八月に着工、来年秋に完工の予定である。その間、御祭神には、本殿横に設ける仮殿にお遷り頂くことになっている。仮殿は、春秋の大祭、正月等の繁忙期も考慮し、拝殿と同等の規模を予定している。

「昭和の大造営」では、将来の自動車の普及を見越し、鉄骨造りの現・祈願殿を建設した。当时例の無い鉄骨造りの神社施設に対し当時、賛否両論あったというが、その後の祈願者の増大には対応する事が出来た。

今回の造営事業も五十年、百年先の宗像大社を見据えた境内整備を行う所存である。

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度					
第一次			第二次			第三次								
《辺津宮》			《辺津宮》			《辺津宮》								
・本殿	・末社	・下水道	・幣殿	・防災施設	・神門	・第二宮	・神宝館	・下水道	・第三宮	・齋館	・諸施設	・諸施設	・本殿	その他
・授与所			その他						その他					

※緊急性の高い施設を優先し、十カ年計画で三次に分ける。

宗像大社平成ノ復興期成会 役員

会長

出光 昭介 (責任役員 出光興産株式会社 名誉会長)

副会長

松尾 新吾 (責任役員 九州電力株式会社 相談役)

長尾 亜夫 (西日本鉄道株式会社 取締役会長)

出光 豊 (株式会社新出光 相談役)

常任理事

麻生 泰 (責任役員 株式会社麻生 代表取締役会長)

田中 浩一 (九州旅客鉄道株式会社 相談役)

清水 晃 (株式会社西日本新聞社 元相談役)

谷 正明 (株式会社福岡銀行 取締役頭取)

伊東信一郎 (全日本空輸株式会社 代表取締役社長)

理事

清水 正敏 (責任役員)

安部 照生 ()

佐藤 千里 ()

寺島 俊基 ()

養父 守 ()

倉元 亮兒 ()

監事

安永 治允 (宗像大社 監事)

福田 伸孝 (宗像大社 監事)

参与

置舘玄二郎 (宗像大社氏子会 会長)

瀧口 幸男 (副会長)

松井 善徳 (副会長)

沖西 敏明 (副会長)

山本 清 (副会長)

城野 寅夫 (監事)

瀧口 和彦 (監事)

安部 實 (監事)

小島 正弘 (監事)

河辺 紘 (評議員)

河辺 邦明 (沖中両宮奉賛会 監事)



平成ノ大造 営

沖ノ島に存在する鳥居。その奥の二つのラインは、沖ノ島から望む大海、又中津宮、古墳群が連なる陸地～辺津宮をイメージした。

氏貞公墓前祭

本年は承福寺による法要、公の遺徳を偲ぶ

第八十代大宮司宗像氏貞公の法要が、命日の三月四日春を思わせる好天のなか、菩提寺である承福寺の埜村住職以下二名によって営まれ、この地に住み代々墓守を続けてこられた占部一族、地元今門地区の皆様、当大社より高向宮司が参列し公の遺徳を偲んだ。

島津・毛利氏等の大勢力が北部九州を支配下に置こうと鎬を削る中、懸命に神郡宗像を守り抜いた英傑である。又、乱世にあつて辺津宮や中津宮の本殿再建をはじめ、神郡宗像内の荒廃した社寺の復興にも努められた。

氏貞公は十六世紀後半の戦国時代末期を、大友・龍造寺・

しかし病をこじらせ、天正十四年三月四日(一五八六)萬ヶ岳城で四十二歳の若さでこの世を去られた。氏貞公は自らの死を三年間秘すよう遺命された為、亡骸は占部右工門が竹皮籠に納め深夜密かに上八村「乙尾の丘上・老松の下」に埋葬された。



その後間もなく豊臣秀吉の命により、世継ぎのいない「宗像大宮司家」はお取り潰しとなり、その御神威を広く知られた宗像大社も次第に衰微していくことになる。

この墓前祭は昭和六十一年より当大社と承福寺が隔年で奉仕している。郷土を守り抜いた中興の祖・氏貞公御一代の生涯に思いを馳せ、我々も更なる神徳宣揚に心を尽くす誓いを新たにしたい。



松尾神社祭齋行

三月十九日、新酒醸造を無事に終えたことを奉告し、感謝の誠を捧げる恒例の酒造報賽祭が、境内・末社 松尾神社で酒造関係者参列のもと齋行された。

大前には酒造されたばかりの新酒が供えられ、当大社の御神酒を醸造している勝屋酒造(檜の露)・伊豆本店(神酒宗像)の代表者、当大社氏子会置舘会長が参列し、午前十一時に祭典が執り行われた。



修祓の後、昨年暮に仕込んだ新酒が芳醇に出来たことを感謝すると共に今後も酒造元が益々栄える様祈念する祝詞が奏上され、各々玉串を奉奠した。

引き続き本殿においても報賽祭を齋行、宗像大社への神恩を感謝し、玉串を捧げて祭典は終了した。

松尾大神は古くより酒の神として知られ、酒造業を営む人々に篤く信仰されてきた。総本宮は京都に鎮座する松尾大社であり、御祭神は大山咋神と当大社辺津宮の市杵島姫命である。それが末社として鎮座される由縁である。

昔より「酒造りは、子育てと同じ」と言われ、経験と技術は無論、慈愛の心を持って酒造りしなければコクのある吟醸酒は出来ないと云われ、杜氏は自信と誇りを持って取り組んでおられる。若者の日本酒離れが進む昨今、私たち日本人は伝統のある清酒を大切にしたい。

氏子会評議員会

去る三月十八日、今年度最後となる氏子会評議員会が置舘会長以下六十名出席の下、当大社清明殿にて開催された。

生憎の雨により、先ず祈願殿にて正式参拝、清明殿へ移動し開会、議事は置舘会長が議長に選出されて審議は始まり、事務局より春季大祭齋行・氏子奉幣氏選定の件が説明され、旧宗像地区より選定頂き、吉永久雄氏(平等寺地区)にご奉仕頂くことが承認された。

また今年度で三年の任期が終える役員改選(会長・副会長・監事)の件が審議され、旧



宗像地区・旧玄海地区・旧福岡地区・旧津屋崎地区・大島地区の五地区で、地区会長一名、監事一名を、さらにそのなかより三役を協議頂き、今期の三役の皆様引き続き留任頂くことが承認された。尚、五月に行われる総代総会で正式承認となる。

本年度、当大社の諸行事・祭典等にご奉仕頂きました役員・評議員・総代の皆様方には衷心より御礼を申し上げますと共に、引き続きお力添えを頂きますようお願い申し上げます。



選出された氏子会三役の皆様



会長 置舘玄二郎

副会長 (旧津屋崎地区・津屋崎地区) 瀧口 幸男

副会長 (旧宗像地区・河東地区) 松井 善徳

副会長 (旧玄海地区・田島地区) 沖西 敏明

副会長 (大島地区) 山本 清

監事 (旧福岡地区・若木台地区) 城野 寅夫

監事 (旧福岡地区・福岡地区) 瀧口 和彦

監事 (旧宗像地区・赤間西地区) 安部 實

監事 (旧玄海地区・神湊地区) 小島 正弘

監事 (旧津屋崎地区・勝浦地区)

宗像大社菊花会・(一社)全日本菊花連盟九州地区 新年総会並び菊作り講習会開催

二月二十三日、宗像大社菊花会の新年総会並びに菊作り講習会が国民宿舎ひびきにて、会員等約七十名が出席し盛大に開催された。

新年総会では、第四十三回西日本菊花大会日程について議論がなされ、二十五年度の日程が決定された。



総会終了後、(一社)全菊連審査員講習会が行われ、(一社)全菊連・石原睦生理理事により「公認審査員の心得及び審査基準について」と題して、資料に基づき審査基準等を詳しく説明頂いた。

続いて、国華園主催の全国菊花大会において、日本一を



七度受賞されている宮崎菊花会の中村年輝会長を講師にお招きして、「私の菊作り」と題し講演頂き、受講者は熱心に聞き入り、



最後の質問のコーナーでは定刻を過ぎても質問は止まず、惜しむように終えられた。

講習会終了後は、恒例の新春懇親会が開かれ、来賓として福岡県議会議員伊豆

美沙子子様・吉武邦彦様、宗像市立玄海小学校々長坂田紳一様、また、当大社菊花会と西日本菊花大会を共催している宗像観光協会の小林正勝会長にもご出席頂き、会員等は互いの菊作りや、菊花会発展のため尽きることのない話題に花が咲き盛大裡に幕を閉じた。

宗像大社奨学金 54期受給生選考校長会

今年度の「宗像大社奨学金」の受給生を選考する、宗像地区中学校の校長会が三月一日、当大社斎館で開催された。

この宗像大社奨学金制度は昭和三十四年の今上陛下御成婚を奉祝し、その記念事業として創設。翌年の昭和三十五年より始まり、今年度で五十四期生となる。

当日は宗像・福津市の中学校長十名に参集いただき、当大社の奨学金制度について、受給生の選考方法、注意事項、支給を終えた五十一期生、今年度も支給する五十二・五十三期生、また、過去の受給状況について担当神職より各校長に報告を行い、選考の熟慮を依頼した。

五十年以上の歴史をもつこの奨学金制度の受給生は、既に八百人を超えている。社会に出て各方面で活躍されている方、或いは大学に進学し勉学に励んでいる方等様々であ



る。この三月で受給を終えた学生諸氏には、もう一度この奨学金制度が参拝者のお賽銭(浄財)から成り立っていることを十分理解し、「郷土である神郡宗像を愛し、将来の日本を背負う有為な人材」になるため、各界で活躍することを切にお祈り申し上げます。

第三回 道主の会開催



三月八日午後五時より、勅使館にて三回目となる道主の会の例会が松尾新吾会長以下二十名出席の下開催された。

ご周知の通り、宗像大神は日本書紀中で「道主貴」とあられる道を司る最貴の神であるとの尊称が与えられる国家鎮護の神。その御神威を仰ぎながら、国家や地域の今後の進むべき方向について学ぶことを目的とし、平成二十四年九州電力(株)相談役松尾新吾氏を会長に「道主の会」として発足。三月に第一回目、第二回目は十月に当大社の秋季大祭「み

あれ祭」に参列いただきながら行われている。今回は高向宮司が「日本人の宗教観」と題した講演を行い、その後懇親会となった。東日本大震災より間もなく二年が経とうとしている時期でもあり、懇親会では熱心な議論もみられ、参加者は日本再生の想いを新たにされていた。

神道青年九州地区協議会 沖縄・宮古島で研修会を開催

当大社より神職が出向

三月五・六日神道青年九州地区協議会主催の研修事業が、沖縄県宮古島市において九州各地区の青年神職十九名が参加し開催された。

宮古島には有名な「御嶽(安易)に入ることが出来ない聖なる森で、本土という神社に相当する」があり、長年人々によ



て祭りが営まれてきた。

この研修会は神道人としての見識を深めることを目的とし、例年九州各県の輪番で開催され、本年は沖縄県の当番により、琉球信仰の聖地である宮古島での開催となった。当日は宮古神社(神社本庁包括神社の最南端)に参集、宮古島神司(御嶽を管理する琉球信仰特有の女性の神職者)の浜川綾子先生、奥間寛次先生(宮古神社権禰宜)、星野光樹先生(國學院大學助教)による、「宮古島の神々と祈り」と題したパネルディスカッションが行われた。

そのなかで御嶽信仰の現状や、神の啓示を伝える等神司に求められる能力的な特異性、現在も抱えている後継者問題などについてお話いただいた。

講演後の懇親会では、宮古神社総代の皆様にも加わっ

ていただき、一つの盃に泡盛をなみなみと注ぎ、自己紹介など一言口上を述べ一同でまわす「オトーリ」と呼ばれる風習で賑やかに懇親を深め、沖縄文化を知る有意義な場となった。

翌日は午前十時より、宮古神社の辻権禰宜を齋主、我々も奉仕員として入り、環境問題や領土問題等の早期解決を祈念し「宮古島安寧祈願祭」を齋行、参列者一同祈りを捧げた。午後からは島内各所を視察し、二日間の研修事業を滞りなく終えた。





神前結婚式挙式者芳名

(平成25年1月~3月)

末長いお幸せをお祈り致します。

30日	24日	23日	17日	15日	◇	◇	◇	◇	◇	10日	3月9日	23日	20日	14日	2月10日
山永 本井 梨 津 子 様	今末 坂川 幸 美 介 様	石佐 原々 木 史 勝 様	高津 田曲 慎 太 美 郎 様	高井 島上 美 涼 介 様	小河 川辺 圭 一 様	善一 野瀬 嘉 成 美 様	立田 川中 悠 香 様	榊木 村島 由 直 穂 様	溝柴 口田 恵 美 様	上花 永田 久 美 和 慶 様	深牛 町尾 秋 乃 浩 様	安東 田谷 桂 智 弘 様	瀧高 口谷 明 善 美 様	仁立 科石 麻依 将 子 幸 様	上吉 杉武 真理 克 彦 子 彦 様
福 岡 市	愛 知 県 半 田 市	茨 城 県 小 美 玉 市	宗 像 市	福 岡 市	栃 木 県 宇 都 宮 市	古 賀 市	古 賀 市	直 方 市	春 日 市	宗 像 市	栃 木 県 宇 都 宮 市	鞍 手 郡	滋 賀 県 野 洲 市	古 賀 市	宗 像 市



銘 (表) 昭和九年二月吉日 金剛齋祀正次
(裏) 奉納 宗像神社 岩崎鶴龜



宗像刀鍛練場(左から三名目 桜井刀工)

宗像刀鍛練所は、昭和初期、遠賀郡の実業家・岩崎鶴龜氏によって田島村山下(宗像大社 南側)に設けられた。目的は、敬神の念篤い氏が当社と香椎宮・宮崎宮に御神刀を奉納する為である。刀工には、当時名高い桜井政次氏が招かれている。各社への刀剣奉納が済んだ後は、余鉄で太刀なども製作されているが何振造られたのかは定かではない。鍛練所が槌音を響かせたのは昭和八年から十二年と僅かな期間である。

古写真探訪

宗像刀鍛練場

NO.8



奉納された御神刀と
榊本宮司(当時)

Shinto Shrines

国宝

大神社展

国宝・重文160件
神社パワー全開!

平成25年4月9日(土)～6月2日(日)

東京国立博物館 平成館
TOKYO NATIONAL MUSEUM (平成館) (東京都)

第六十二回神宮式年遷宮を奉祝する事業として神社本庁が特別協力し、四月九日より東京国立博物館で「国宝 大神社展」が開催されます。当大神社からは沖ノ島出土の金製指輪をはじめ金銅製高機や龍頭といった、かつて同時に出陳されたことのない神宝十三件の貸出を予定しております。

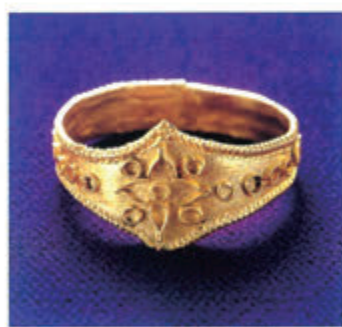
この特別展では日本の文化、伝統、信仰、そして自然観についての理解を深めて戴くことを目的に、全国各地の神社の協力のもと、大切に守り伝えられてきた国宝や重要文化財に指定された神宝約一六〇件を含む約二〇〇件が出展されます。質・量ともこれほどの規模の神宝が一同に集められた展示は過去に例がなく、当大神社としても十三件の神宝を一度に出陳するのは初めてのことで、まさに大神社展の名にふさわしい今後二度とない展覧会です。

是非、この機会に足をお運び戴き、日本の伝統、信仰の基礎である神道の奥深さを感じて頂

金製指輪など神宝十三件を出陳

四月九日より東京国立博物館で「国宝 大神社展」開催

ければと存じます。
また同展は来年平成二十六年一月十五日からは九州国立博物館でも行われます。



金製指輪(国宝)

期間 東京国立博物館 平成二十五年四月九日～六月二日
九州国立博物館 平成二十六年一月十五日～三月九日

BS ジャパン 神社百景 ~ GRACE OF JAPAN ~

テレビ放送のご案内

日本全国八万社の神社から、景観の美しい神社を紹介する情報番組「神社百景～GRACE OF JAPAN～」で、宗像大社が二週にわたって放送されます。

この番組は神社本庁全面協力の下、平成二十四年より俳優の堤真一さんのナレーションで、「GRACE OF JAPAN～自然の中の神々～」というタイトルで放送されてきました。

四月からは、タイトルとともにナレーション(ナビゲーター)も、俳優の伊藤英明さんに引き継がれ、その第一回目と二回目で当大社が紹介されます。

通常俳優さんは現地の神社には赴かないのですが、三月上旬伊藤さんの強いご希望により、ナビゲーターとして初めてご本人が宗像三宮全てに参拝され収録が行われました。

美しい映像と音楽で構成されるこの番組で、宗像大社の魅力を再発見いただければと存じます。



放送日
前編 4月 7日(日)
後編 4月14日(日)
※いづれも
18:00～19:00



金銅製高機(国宝)

(続)

浜の寄物

276

いしいただし

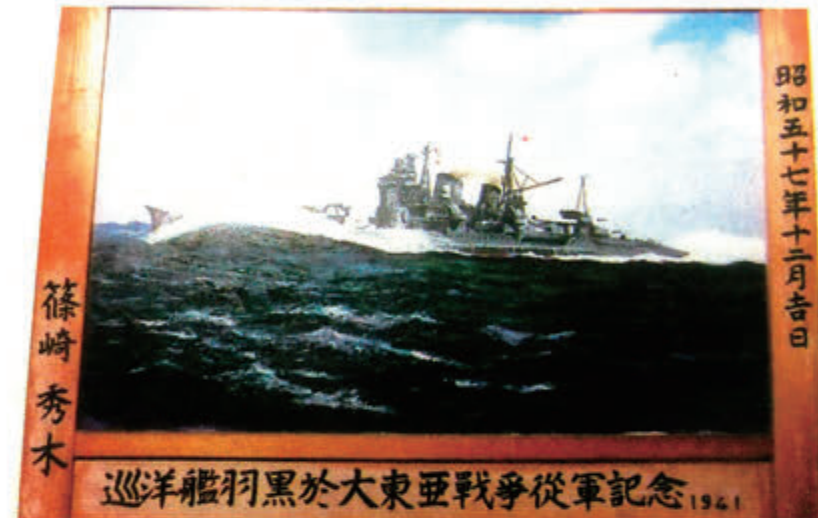


私が勤めているところの古賀市（いさごい）に、若八幡宮（わかやわたのみや）（祭神 応神天皇）が鎮座している。そこに数枚の絵馬が残っている。江戸時代の文政八年（一八二五）の絵馬は神功皇后

十門、十二門（たに）高角砲六門、六十一門（たに）魚雷発射管、水上偵察機二機も備えている。帝国海軍が誇る重巡で、艦橋が低く、姿、形がよく精悍な印象がある。

羽黒の戦績は太平洋海域に広範囲で、多くの作戦に参加している。特に篠崎氏（しのざき）従軍の同十六年（一九四二）は太平洋戦争の緒戦で、活躍がめざましい時期であった。同十七年二

月、三菱長崎で竣工。同十九年レイテ沖で爆撃により大破、自沈。「摩耶」は神戸川崎で昭和七年竣工。同十九年十月パラワン沖でアメリカの水艦の雷撃で沈没している。大戦後半は連合国の圧倒的な軍事力になすすもなく多くが南海に消えていった。



月のスラバヤ沖海戦では、高木中将の率いる重巡、軽巡、駆逐艦で編成された第五戦隊で、重巡は羽黒と那智である。対するのは米英蘭の連合軍で砲撃戦、魚雷戦を展開している。羽黒の一弾は、英重巡工グゼター（イギリス）の重巡でドイツのグラフシュペー号を自沈においこんでいる。の火薬庫を貫き、その後足柄、妙高に逃げる途中スンダ海峡で撃沈されている。那智と羽黒は蘭巡デロイテルとジャワも撃沈している。その後ブーゲンビル沖海戦には妙高と参加。昭和十九年フィリピン沖戦、捷

号作戦は第一部隊、第五戦隊として参加。同二十年五月ペナン沖でイギリス駆逐艦の雷撃で沈没された。一万トン級重巡の誕生と最後はどうだったのか。野沢正氏の「日本軍艦百選」によると、「那智」は昭和三年十一月に呉工廠で竣工、十九年七月マニラで爆撃により沈没。「妙高」は同四年七月、横須賀工廠で竣工、終戦時シンガポールで航行不能となりイギリス軍に接収されマラッカ海峡で処分。

「足柄」は神戸川崎造船所で昭和四年八月に竣工、同十二年五月イギリス国王ジョージ六世の戴冠式記念国際観艦式に参加訪欧している。この時宗像市の画家中村研一もこの艦に乗っている。参加列国は艦の美しさと装備に賛辞を惜しまなかつたという。艦は太平



羽黒

洋の多くの作戦に参加し、同二十年一月パンカ海峡でイギリスの潜水艦の雷撃により沈没。「愛宕」は昭和七年三月、呉工廠で竣工、同十九年十月パラワン水道で、アメリカの潜水艦の雷撃で沈没。「高雄」は昭和七年五月、横須賀工廠で竣工、同二十年七月、イギリスの特殊潜航艇の雷撃を受け行動不能となり、終戦後の二十二年十月マラッカ海峡で処分。「鳥海」は昭和七年六月、三菱長崎で竣工。同十九年十月レイテ沖で爆撃により大破、自沈。「摩耶」は神戸川崎で昭和七年竣工。同十九年十月パラワン沖でアメリカの水艦の雷撃で沈没している。大戦後半は連合国の圧倒的な軍事力になすすもなく多くが南海に消えていった。

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



北九州市 八幡西区 豊田 光子
 福祉学院のリハビリポスター貼られる故郷の道梅咲き満ちり
 福祉専門学校のポスターが目立つ作者の故郷。ポスターと梅が等分に詠まれてるので三句切れにし、(貼られをり)の道に梅咲き満ちるとポスターを主にしてみた。

福津市 若木台 野間 精一
 散りはてて枝のみ残る山吹に今朝暖かき綿雪が降る
 降る雪に暖かさを感じた作者。初句は言葉が強いので(葉の散りて)、三句は副詞にし、漢字の暖では雪と違和があるので(あたたく)と表記しては。

宗像市 日の里 石松 弘次
 佳いものは一つにて足る娘のくれし一膳のはし三歳も使う
 娘に贈られた箸を大切に思う作者の気持ちが素直に表れている。初句は口語になってるが三句が文語なので(佳きもの)と文語にし、下の句を(を)を三年使う)としてみた。

福津市 若木台 山崎 公俊
 手袋や外套などはないものか雪の日素手のままなる巫女ら
 心優しい作者は巫女達の防寒具をつけない姿に気を揉んでいる。作者の思いがやや出過ぎなので二句以下を(を)をつけぬまま雪の日素手で巫女ら働く)としてみた。

宗像市 土穴 山本 静子
 八百年直ぐ立つ杉の御神木霧島山の宮居に詣す
 ご神木の杉の威容にうたれた作者。三句を字余りになるが助詞を入れ、(ご神木を)とし、結句の詣すを(に)仰ぐ)とすると木の高さも出る。

宗像市 日の里 大和 美由
 金柑の木を揺らしつつ鴨は朝な夕なに実をついばめり
 金柑の実に集まってきては木が揺れるほど啄む鴨のたくましさを見ている作者だろうか。できた歌だが、一瞬を切り取る詠み方も試して。

宗像市 池田 森 龍子
 冬日背に温もりをればいつしかに微睡いたり夫と出会う

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

福津市 中央 池浦千鶴子
 しぐれ降る音しづまりて夜明け前音なき音が音となりたり

北九州市 戸畑区 田中ハツセ
 久に見る広辞苑の重さに腕きたへむと三度持ち上ぐ

宗像市 日の里 秋吉 嘉範
 寒さの中咲き始めたる桜草一輪の花に精気をもらふ

宗像市 自由ヶ丘 伊藤 慶子
 早起し毎日通う教師らが指導を話す大島航路

宗像市 田久 巻 桔梗
 雨水時の土手に開いた路の花手に染む香若き日偲ぶ

福岡市 南区 井田有久衣
 (断捨離)の元祖か子らは教科書もマンガも家に置いて巣立ち

北九州市 八幡東区 永田久美子
 留守がちの隣家の庭のろう梅はひっそりと咲き主を待てり

うきは市 浮羽町 向 則正
 四世代生きて尚待つ八重桜白寿を越えし年も忘れて

◆選者詠
 物なき頃初めて食せしオムライス忘れへぬ味に母の想い出

春靴を選ればおもほゆ赤き靴いたく似合ひし亡き歌の友
 ばら色の雲浮くゆふべ明日食べんあたたかきパン抱へて帰る

俳句作品集

第五九三回

宗像市 日の里 石松 弘次
 椿咲き一日うららの日和かな

宗像市 日の里 花田いつ枝
 トンネルを抜け出る度や麦青む

宗像市 田 礼 早川 祥三
 雪の峰越せぬ雲にも虹の色

編集後記

郷里に帰省させていただき、親戚の結婚式に出席してまいりました。幼少時に遊んでいた事思い出し、感慨深い気持ちになりました。宗像大社でも神前結婚式を御奉仕致しておりますが、飲みに満ち溢れた姿にはいつも力をいただいております▼先日、境内で自分等もここで結婚式を挙げて、息子等も挙げたから、孫達もここで挙げてもらいたいな...とのお声をいただきました。子々孫々とはまさにこの言葉が表していると思えました。平成の大造営も五十年後、百年後、何世代も先を見通し、愈々本格的に始まります▼社報を担当して早一年が過ぎようとしております、今年度も引き続き担当致します。稚拙な文章で見苦しい点多々あるうかと思いますが、「子々孫々」と続くように研鑽してまいりますので、何卒宜しくお願い致します。(鈴)

4月祭事暦

- 1・2日 春季大祭 (1日目) 午前11時～一日祭 (2日目) 午前11時～二日祭 午前11時40分～高宮祭、第二宮・第三宮祭 宗像護国神社 春季大祭 交通安全講話祭
- 15日 月次祭 午前10時～高宮祭、第二宮・第三宮祭 午前11時～総社祭
- 29日 昭和祭 午前11時～

発行所 宗像大社事務所・宗像会

住所 〒811-1350 五

福岡県宗像市田島2333-1
 電話 (0940)621-3311 (代)

発行人 葦津幹之
 編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
 制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円